

★カラカスを訪ねて「生き生きベネズエラ」＝宮本真樹子

大阪 AALA 会員で日本 AALA 国際部会にも参加している宮本真樹子さんが 1 月 22 日～24 日、ベネズエラの首都カラカスで開かれた「生命のため主権と平和のための反帝国主義世界集会」に参加しました。これには世界各地から 403 人の海外代表とベネズエラ国内からは 2096 人が参加し、12 のワーキンググループに分かれて話し合いがおこなわれたそうです。宮本さんは 3 度目のベネズエラ訪問で、集会の後、カラカス市内の各地を一人歩きして取材し、たくさんの写真とともにルポ（第 1 部 反帝国主義世界集会に参加して 第 2 部 カラカスの街歩き&独り旅）を送ってくれました。以下はその報告です。

第一部 反帝国主義世界集会に参加

◆北米局長が出迎え

カラカスの空港に着くと、主催者の出迎えがあり、偶然同じ飛行機だったキューバ人 3 名（昨年スクレ集会の担当者だった ICAP のリリア女史と今回の担当者 2 名）と米国からの参加者と会いました。が、私には、外務省北米局長のマウリシオ・ブランコ氏が迎えに来ていました。マウリシオは、熱い再会の挨拶とチョコレートボンボンで歓迎してくれました（私も無論、キューバ珈琲と日本のチョコレートを持って）。



<写真・出迎えてくれたマウリシオ・ブランコ氏>

宿泊所に案内され、ICAP のリリアと米国のエリと一緒に、「午後は休息、夜イベント会場に行く」と言われ、半日待機となって、ちょっと残念。

会場のホテル・アルバは、周辺を含め、人にぶつからないで歩くのが難しいほどの参加者でごった返していましたが、入り口の警備は、ひとり一人の参加証を

確認しての入場です。



<写真：カッコいい警備の女性・若者>

ホテルに入ったものの、どこが会場なのか何処へ行けばいいのか、何の案内も無いので、独り途方にくれ、あちこちを歩きまわり、見つけた出店で珈琲とケーキを賞味（さすがベネズエラ、本当に美味しい！）。

並ぶ出店では、ナッツが量り売りしています。様々な種類のナッツ、味付きナッツもあり、味見させてくれます（美味しい〜）。これを買わない手はない、こうして売っているからには日本のような薬漬けではないでしょう、たっぷり買い込みました。

一息ついた後、さて？きっと参加しているだろうと、昨年友だちになったベネズエラのイネス女史とジョニーにメッセージを送ると、それぞれ、ホテルのエントランスにいるよ、プログラマに居るから来て、と返信があり二人に再会、主会場へ。満席なだけでなく立錐の余地もない会場、少しだけ聞いて、仲間たちと近くのピザ屋へ（ここもあふれた参加者でいっぱい。マッシュルームピザが美味！安い！大きなピザ2枚と飲み物4人分でUS8ドル）。



<写真：抜け出してピザを食べに行った仲間、ICAP のリアとベネズエラのイネスとその友>

◆たたかう世界の女性たち

2日目は“女性”の分科会に参加しました。外国人参加者は前列に座るよう指示され、米国、カナダ、アイルランド、イタリア、スウェーデン、チュニジア、セネガル、オーストラリア、ペルー、ニカラグア、コロンビア、ウルグアイ、パラグアイなど各国参加者紹介があり（「完璧にスペイン語を話す日本のマキコ・ミヤモト」との紹介には肝を冷やし）、民族衣装の女性、顔にペインティングした先住民など、華やかな雰囲気です。



<写真：“女性”分科会「ヤンキーは家へ帰れ！」のハチマキが配られて>

報告者の殆どは堪能なスペイン語で（6ヵ月の学習で話すようになったセネガル人！）、僅か数名が英語で通訳付き。いずれ劣らぬ逞しい闘う女性たち、現実社会での女性迫害の実態をリアルに告発、熱く激しく「反帝！反人種差別！反暴力！反ファシズム！反新自由主義！反マチスモ！」を訴え、「闘う女性の国際連帯の前進！各々の国はどのような状況か？各国での闘いと国際を切り結んで進めよう！」と、熱が出そうなド迫力に圧倒されました。



<写真：女たちは闘う！ >

◆大統領宮殿前の集会に

午後、外務省のネリ女史が「昨日から貴女を探していました、私とエレナの二人が貴女のサポートをします」と現れ、「これからミラフローレス宮殿（大統領官邸）へ行きます」と告げられました（あの憧れのミラフローレス！）。

宮殿広場に着くと音楽が鳴り、宮殿に向かい合った斜面は既にぎっしり埋まっています。ネリの先導で斜面を登り頂上の日陰に座ると、「マキ！」キューバのブリガーダで出会ったチリのオデッテ女史です。再会を祝し、お互い、仲間の近況報告。



<写真：キューバのブリガーダ仲間チリのオデッテ>

眼下の広場には、旗やプラカードを掲げてデモ行進してきた人々が続々到着、団体を紹介する興奮した司会の声、踊りながら行進する若者たち、ドラムが音高く響き、わが胸も高鳴ります。



<写真：ミラフローレス宮殿広場の集会で横断幕を>

歓声が起こり、マドゥーロ大統領の登場です。「我らの大統領は唯一人、その名はニコラス！平和の大統領ニコラス！」のコールが巻き起こり、旗が打ち振られます。



<写真：ミラフローレス宮殿のマドゥーロ大統領>



力強いマドゥーロ大統領スピーチ；“チャベスのボリバーバル革命”が根付き進んでいる、国民の中に築いてきた様々なコミュニティ・組織がベネズエラ国民を結び団結させている、破壊活動では決して我らの団結は破れない、米国の陰謀・封鎖を糾弾、我らはますます強く団結して進むだろう・・・

3日目最終日は、アダム・チャベス在キューバ、ベネズエラ大使も出席して、各分科会からの報告（ロシア人がとても綺麗なスペイン語で第6分科会の報告！）と、イラン参加者からの「訴え」と佳いニュース（明日、全米90ヶ所で「イランから米国は出ていけ！」集会）などを聴き、熱い雰囲気の中で「宣言」を採択して閉会しました。



<写真：私をサポートしてくれた外務省のネリとエレナ>

◆ラジオ局のインタビューをうける

「ラジオ・ベネズエラが貴女にインタビューしたいって」
ごった返すホテル会場の中でぼんやりしていると誰かに捕まってしまいます。

「どこからですか？」「日本です、今はキューバに住んでいます」
ディスク・ジョッキーから二言三言ありきたりの質問がされたかと思うと、
「はい、そのトランシーバーをかぶって下さい」と、「え！録音でなく実況中継?!」いきなり本番です。

(軽快な音楽が流れ)「ブエナス・タルデス！ラジオ・ベネズエラ、ホテル・アルバ、エンクエントロ・ムンディアル・アンチインペリアリスモ会場からの中継です」にこやかな表情がさっと変わったDJ氏、マイクに向かって早口で喋ります。

「日本のマキコ・ミヤモトにインタビューです。こんにちは！ベネズエラの印象はどうですか？」

「あ、はい、みなさんとっても親切で、熱気にあふれて、コーヒーもケーキも美味しくて、(答えになってないなあ^^;)」

「ベネズエラは初めてですか？どうしてベネズエラに？」

「3度目です、12年前、個人旅行で来て、昨年、スクレの集会に参加して、今回で3回目です。日本のメディアが本当のことを伝えていないので、私自身が見て、伝えたいと思って」

「それで、どうですかベネズエラは？」

「いろいろなミッションが組織されていて、人々が結び付き、圧倒的多くの若者や女性たちが活動参加して、それはとても重要です、素晴らしいです。

社会は落ち着いているし、誰一人として路上に住んでいないですね、誰も餓えてはいない、それを日本に伝えたいです」

深く頷いた彼が更に質問してきます、「ところで、日本はどうですか？日本の革命は？」

「は！（そんなことまで訊く？予想外の質問！）そうですねえ、かなり難しいですね、特にこの20年、日本は後退していると感じます。60年代、70年代は、革新政権をつくれるかと考えていましたが、今はウルトラ右政権で、しかもメディアが、テレビも新聞も本当のことを伝えません、メディア・コントロールされています、かなり時間がかかるかもしれません」

「では、どうすればいいと思いますか？」

「(そこまで訊く?!ベネズエラらしいなあ) ん～ノ・テンゴ・ブエナ・イデア(妙案は無いです)、ペロ～・・・本当のことを、ベネズエラに限らず、すべての事で本当のことを、真実を国民に伝えていく、そしてバタジャ・デ・イデア(思想の闘い)が必要だと、私は思います(冷や汗;)」

私を見つめしっかり頷いた彼、初めて笑顔になって、マイクに向かい、

「日本のマキコでした！ラジオ・ベネズエラなんとかなんとか・・・」

やっと解放してくれました(^^*



<写真：トランシーバーを被ったら急に緊張して>

◆歌と音楽で団結するベネズエラ

午後は、会場近くの公園で閉会集会です。カラカス美術館のある広大な公園の噴水広場に、舞台と客席が作られていました。

素晴らしい歌声が響いています。

「あの人が作って歌っているのよ、ベネズエラの闘いの歴史を歌にして」

彼女自身も闘う歌手である、スクレ集会からの友人アナエル嬢が説明してくれます。

艶のある声、まるでオペラを聴いているような声量、歌詞は聞き取れないけれど、ドラマチックな表現で次々に歌い聴かせます。ところどころ、会場がこれに唱和してみんなが歌います（心ひとつに一緒に歌う、なんて素敵なんでしょう、ベネズエラは歌で団結し闘っている）

男性歌手から女性に代わり、これまた美しい声にたっぷりな表情、トランペットが高鳴り、演奏も素晴らしく酔わせます。さすが、「音楽の国」ベネズエラです（緑の公園でこんな生演奏を聴けるなんて、至福・・・）。



<写真：いつも歌を口ずさみ、闘いの歌を教えてくれるアナエル>

演奏が終わったと思ったら、パラパラっと拍手が起こり「ウオー！」と歓声が！マドゥーロ大統領が到着したのです。

大きな拍手と歓声、打ち振られる旗に答えて手を振るマドゥーロ大統領、昨日に続き、感動的です。（動画で撮ってしまい、写真が載せられなくて残念）

マドゥーロ大統領は、出席してくれた各国代表への敬意と、来賓への謝意、ホルヘ・アレアサ外務大臣とアダム・チャベス在キューバ大使を紹介。

「欧米など先進国と言われている国々で、60%が貧困状態、資本主義は人間を幸せにしているだろうか？帝国は何を狙っているのか？平和な社会こそ！反戦争、反帝国、我々は正義を求める！今ここに集まった72カ国、403名の外国からの参加者、

我らのアメリカは中米・北米・南米・カリブ海、このすべてを“我らのアメリカ”と呼ぶ。統一と団結で闘おう。シリアに連帯！パレスチナに連帯！

イラクから米帝は出ていけ！17年間で100万人のイラク人が殺された。

リビアに平和を！プーチン大統領が支援している。シリア、リビア、パレスチナ、イラン、イラク、すべてはベネズエラの友だ。思想と魂をもって、我らは連帯している、北米帝に抗しよう、グアイドの盗人がベネズエラを混乱させようとしている、別の世界は可能だ、環境問題が迫っている、新しいモデルを求めよう！

先週、1時間半に及ぶインタビューをワシントンポストから受けた、「2019年はどうだった？」と、訊かれた、「通りの人々（大衆）に訊いてくれ」と答えた、

チャベスの心、ボリーバルの意志、21世紀の革命は続く、2019年は一つの革命の歴史だ、人々の運動、人々の歌が聴こえるだろう（会場一斉に歌い出す♪）

20年間、革命を築く歴史だ、69%の支持を受けた、これは真実だ、チャベスタの強さをワシントンは知らなかったのだ（「我らのプレジデント、その名はニコラス」のコールが巻き起こる）

2020年、強い闘いを進める、支えてくれたすべての人々に感謝、中国、ロシア、メヒコ、パナマ。援けてくれている。米国の人々へ挨拶を送る、人々への敬意は基本、すべての国の人々、どうぞ、ベネズエラに来てください、ご招待いたします」（ワアー！と歓声が上がり、様々な旗が振られる）

マドゥーロ大統領の後ろに、幾つもの噴水が高く上がり、その上にキラキラと輝きながら虹が弧を描いて掛かっています、見事に美しい風景です。



<写真、スピーチしているマドゥーロ大統領、何人もの警備の人が守っています>

大統領の演説の後、米国女性から、「米国の中東・中南米各国への犯罪的介入を告発」と、明日の「イラン連帯集会」お誘い、などのスピーチがあり、シリア代表から、「10年、反帝国で闘ってきた、」「我らの傍らにはチャベスがいる、フ

ィデルがいる！」と、闘いと連帯を強調。ロシア代表からは、静かな、でも力強い「世界は正義の闘い」が訴えられました。

集会が終わると、皆が一斉に来賓や自分のお目当ての国の代表者たちのところへ詰めかけ（ロシアファン自認のアナエルと私は立ち上がりざまロシアの代表者たちのところへ）、それぞれ交流しました。



<写真：ロシアの代表に「今年は赤の広場のメーデーに行きます！」>

終了後は、またまたいろいろな国の参加者と交流・写真撮影、ルーマニア代表から「サンパウロフォーラム」資料を頂き、公園を愛で、露天商を冷やかし（素晴らしい刺繍の VENEZUELA 帽を買い）、解放感に浸りました。



<写真：どこかの国の参加者>



<写真：露天商～VENEZUELA 野球帽は5 ドルだった>



<写真：交差点の真ん中で休んでいる人たち>

第2部 カラカスの街歩き&独り旅

翌朝からは自由です、大好きな自由！

朝食をメリア・ホテルのバーでと、今日発つアイルランドのリリと約束。やって来たセネガル女性と一緒に、カプチーノとクリームチーズ入りクロワッサンを。熱々クロワッサンがとっても美味しかった、のはいいけれど、支払いのお札が50ユーロしかありません（ハバナの空港で米ドル紙幣が皆無でユーロ両替しか出来なかった）。ホテルではおつりが無い、と。カードは？と訊くと、今ここではカード用機械が無い、はて？困った。と、セネガル嬢が「これで彼女の分も一緒に」と20米ドルを差し出しました。恐縮してお礼を言う私に、軽く手を振って「OK!OK!」さほど親しくなってもいない私に7ドルもご馳走してくれまし

た。

◆イラン連帯集会に

9時ピッタリ、休日のマウリシオ氏が迎えに。宿泊所をホテルに移りたい私のワガママで、ホテル・ウオールドルフにチェックイン（安くはないけれど広いお部屋にエアコン、ドライヤーなど整ったシティホテル）。

マウリシオの車でボリーバル広場の近くまで。外務省の駐車場に車を入れて、「イラン連帯集会」へ。



<写真：外務省内のチャベスに敬意>

「イラン連帯集会」は、厳粛な雰囲気が始まりました。

ソメイマニを称え、米国の暴虐に抗議（あの卑劣な米国のテロには心底憤りを感じていた私、米国を許せない！）、国際的連帯をイランに！



<写真：イラン連帯>



<写真：イラン連帯>

◆集会後はお楽しみ

マウリシオの案内で、ベネズエラ特有ケーキとカップチーノ。



<写真：このお店を覚えておこう、ケーキが素晴らしく美味>

少し散歩して、街をドライブして、お寿司屋さんへ。街は静かです、普通の暮らしです、どこに争いがあるのか？何も問題は感じられません。



<写真：観光地にもなっているポリーバル広場>

街をかなり走って、高台のちょっと高級な住宅街、日本的に表現するなら「山の手」といったところでしょうか、マウリシオがネットで探してくれたお寿司屋さん。常連と見受けた女性が一人で食事に来て、次々注文して、最後にお蕎麦を食べていました。



<写真：お寿司屋さん。シーフードにお野菜を混ぜたサラダ、かき揚げ天ぷら、創作海苔巻き、どれもとても美味しく、日本茶もありました>

翌朝、ホテルの朝食を済ませた時、外務省のネリが訪ねて来ました「昨日から貴女が何処へ行ったのか探していました、何も問題は無いですか。今日は街をご案内しましょうか？」

ネリの夫の車で街中を見て走り、ショッピングセンターに。ベネズエラ珈琲などを買い、レジで並び、ユーロ札を出すとレジ係の人が電卓で計算し、半端な分を（またチョコレートを）買い足しました。



<写真：ショッピングセンター内のお店>



<写真: 買い物中の人を写すのは失礼かと思って、レジで並んだ時も写さなかったのですが、小さなお店では混んでいて、ぶつかりそうになったり、レジでも待ちました>



<写真：ショッピングセンターのカフェでお茶している人たち>

ネリの息子さんが通っている中国学校（土日だけの語学と文化を学ぶ学校）の見学に行きました。昨日、中国のお正月のお祝いがあったようで、飾り付けがしてあります。小学生から中学生くらいまで、お喋りしたりふざけたり、いい雰囲気の子どもたちです。



<写真：お洒落な中国人の教師が体操を指導している>

ネリがいつもここで買い物をするという中国人経営の二つのお店には、種類の多いお醤油や調味料、ラーメンやお菓子などが天井近くまで並んでいます。お米の種類も多く、「このジャスミンの香りのついたお米が好き、我が家はいつもこれ」というお米を買いたかったのですが、重いので残念ながら買えません。キューバでは手に入らないお豆腐と調味料、中国茶、ラーメンなどを買いました（次に来るときは大きなスーツケースで来なければ）。



<写真：中国のお店>

「午後1時からボリーバル広場の集会に来て」と、ジョニーからメッセージが入ったので、広場に行ってみると、イネスやキューバ ICAP のリリ始め、チュニジアや女性の分科会で知り合った人たちが集まっていました。ジョニーはいなかったのですがみんなに挨拶して、まだ行くところがあるからと退却し（実はかなり疲れていた）、新しくできたばかりというアイスクリームのお店に連れて行ってもらい、アイスクリームをご馳走になって、ホテルまで送ってもらいました。

◆翌日からは完璧独り旅

ホテルはカラカスの街の中心にあるようで、ホテルを出ると商店街です。個人商店が何処までも続き、覗きながら歩くと公園に出たり、ショッピングモールがあったりと、知らない街を歩くワクワク感に満たされます（いつものように道に迷い、同じショッピングセンターの周りをぐるりと一周してしまったりしたけれど）。





<写真：個人商店が並んでいる>

路上でトラックの荷台に積んだバナナとミカンを売っています、新鮮な感じがとても美味しそうです。

「美味しいよ～！みかん？1キロ？3キロ？5キロ？全部買いなよ！」

ちょっと粋なオニイサンが笑いながら私に言います。

「ノーノー、私が食べる分だけ下さい」と、1ドル札を出すと、40,000 ボリーバルお釣りをくれて、ビニール袋に入れてくれました（今は、私の知る限り、どこの国へ行ってもビニール袋のサービスなどありません、ましてや街頭では猶更。キューバでは CUC のお店で袋が運よくある時のみサービスで、普通は1ペソ約5円で買う。路上販売でも新しいビニール袋のサービス、ベネズエラですね）。

「じゃあこれで、バナナも」とバナナの房を取ってお釣りにもらったお札2枚を出すと、1枚（2,000 ボリーバル）返してくれました（果物はキューバより安く、バナナがほっこり甘く美味しかったこと）。

雑貨も売っている小さな中国食堂（ひっきりなしに来る買い物客で賑わっているお店）で、春巻きと野菜付きチャーハンを食べました。マルタの小瓶とで、3ドル。

隣の席では男性客が二人、ビールを山のように並べて飲んでいます。

あちらの席では、7人の女性客が話に盛り上がっています。終わると一斉にコンパクトを取り出してお化粧直し、「美人の国」ベネズエラの美女たちはお洒落に余念がないのです。

壁には、「禁煙」マークと共に「禁ピストル」の絵が！



<写真：雑貨も売っている小さな中国食堂>

◆カラカスの美術館は無料

地図で確認済みの道を、商店を見ながら確信をもって歩いていきました。途中、大きなショッピングモールに出会い、中に入ってみました。

ブランド品店やケイタイショップ（アンドロイドのみ、4Gも使える、値段は80ドルくらいから180ドルくらいまで様々）など。





〈写真：上階からガラス越しに見える公園では、置かれた運動器具で鍛えている人たちが見えます。〉



〈写真：大勢が集まって運動している公園〉

モールを出て、さて？方向がわかりません。立ち話をしている二人の男性に訊きます、「カラカス美術館はこの先ですか？」
男性二人が顔を見合わせます、明らかに当惑顔。

「美術館、ね、こっちの道をずっとずっとまっすぐに5ブロックほど行って、あそこに見えるビルの看板、あの先を少し行って右に曲がると美術館が見えるよ」
道の両側に並んだお店を見ると、私が来た道です、示された看板はホテルから見えるビルの屋上にある看板です（ホテルを出た時から間違った方向に来た！）

美術館のある広場に来ると、先日、マドゥーロ大統領の集会をした公園の一角だとわかりました、ホテルから近かったのです。

広場では女性が集まってはしゃいでいます、マイクを持った男性がリードしてゲームをやっているのです。「55歳以上の女性のお楽しみサークル」です。

数多くあるミッションは、様々な人を組織し、ひとりの孤独も出さない、ベネズエラ国民を結び付ける大衆活動「チャベスの心」です。



<写真：お楽しみ活動の女性たち>

美術館は無料でした。池に蓮の花が咲いた美しい庭を囲んで、映像や写真の部屋もあります。「ようこそ、ご自由にどうぞ」と歓迎され、静かな館内をゆっくり鑑賞、15世紀イタリアの宗教画をはじめ、15～19世紀のフランス、オランダ、イギリス、ドイツの絵画が見られました。

別室の写真展も無料で、ベネズエラ国民の暮らしを写して興味深いものでした。緑生い茂る美しい庭園を見ながらテラスのカフェで珈琲とケーキ。気持ちの良いそよ風に、いつまでもここに居たい、と旅の醍醐味を味わいました。

美術館の外は彫刻のある公園で、移動喫茶もお店を出しています。ローマの街角にあるような塑像の噴水は、先日ここでマドゥーロ大統領のスピーチを聞いたところです。

あちこちのベンチでくつろぐ人々、太極拳をしているグループ、楽器の練習をしているひとたち、にやんにやんチュンチュンの若者たち、長閑な空気が心地よく、彫刻を見ながら広い公園をまったり散歩しました。



<写真：公園で太極拳>



<写真：子どものお迎え時間の学校前>



<写真：金ぴか象さん>



<写真：ボリーバル広場のそばの路地。綺麗な新しい傘で飾っています>

ベネズエラ、カラカスの街、あちこちあちこち 13,000 歩以上も歩き、見て回りましたが、困窮状態の人は見かけません。やせ細っている人もいないどころか、皆さん、恰幅良く、陽気で親切、ホテルは上質のサービスで気持ちの良い対応、路上で会う人々も皆、落ち着いて普通の暮らしをしています。ホームレスらしき人も見かけません。



<写真：バイクの訓練しているお巡りさん>



<写真：4人の若者が犬を連れて散歩、カメラを向けたらみんなが一斉にそれぞれの犬を抱っこしてポーズした>

日本で報じられたような「モノ不足で食糧にも事欠き痩せ細っている人々」「病気で死にそうな病院へ行かれない子供」など、どこを見ても訊いても、存在しないのです。商店に品物がなく売っていない、などというのも見られません。

もし仮に、商社や大企業が「物不足」を演じて価格のつり上げを狙ったとしても、個人商店がそれに同調できる筈はないでしょう、数週間も在庫を抱えたまま店を閉じていることなど出来るわけありません。カラカスの街は、大きなショッピングモールが幾つもありますが、同時に、小さな個人商店が軒を並べ延々と続いているかのような街です。商品は溢れるほど並んでいますし、市民は落ち着いてお買い物をしています。どこからそんな偽情報が出たのか、不思議です。

米国発の「メディア・テロ」としか考えられません。日本のメディアがそれに同調して偽情報を流していたのなら、大変な国際問題となるのではないのでしょうか。

ベネズエラを再々訪問して、ベネズエラよりも日本の方が、見過ごせない深刻な状況ではないかと思いました。

(以上)